

令和7年度 学校評価

重点目標	①	指導支援の充実 ～楽しい（できた、分かった）学校～
	②	安全で安心な学校づくり～一人一人を大切にしている学校～
	③	教職員の在校等時間の縮減 ～教職員が元気で質の高い学校～

重点目標 ① 指導支援の充実 ～楽しい（できた、分かった）学校～				
担当	具体的目標	具体的方策	評価結果	課題
幼小学部	幼児児童の習熟度に応じた段階的な指導を行う。	適切な実態把握をもとに個別の指導計画、年間指導計画を作成し、関係職員や家庭と共通理解を図る。	形成的評価を行い、各幼児児童の習熟度に応じた学習内容を検討しながら指導を行うことができた。	引き続き、実態に応じた適切な指導を実践する。
中学部	生徒が日々の学習を積み重ね必要な力を身に付ける授業を行う。	主体的対話的な活動を促す学習計画と身に付けたことを生かす学習場面を設定する。	生徒の実態に応じた適切な教育を実践し、各教科等の目標を概ね達成できた。	長期的な視点で必要な力を身に付けるよう意識して取り組む。
高等部	授業改善に努め、卒業後を見据えた指導・支援の充実を図る。	体験的な学びや協働的な学びを重視した学習を進め、各生徒の視野を広げ、主体性を育む。	体験的な学びや協働的な学びを意識して授業内容や学習環境を工夫した。実践を共有し指導の充実を図った。	体験的・主体的・協働的な授業をさらに充実させる。
訪問教育部	他者とのつながりを感じられる取組を計画的に取り入れる。	訪問生同士や通学生との交流がもてる取組を計画的に行う。	スクーリングやオンライン交流等を通して、他者とのつながりを感じられる取組を計画的に行うことができた。	訪問生や学年との交流の機会をさらに増やしていく。
教務部	作成した教材データの共有化	教材データを共有することで、教材作成時間を短縮し、指導支援の充実を目指す。	長期休業中の課題や、懇談時の教室予約、文化祭の見学調整、各教科の教材など活用が進んできている。	kyouikuやteamsに教材データが点在して、一元化ができていない。
研修部	よりよい授業づくりを目指し、教育の質の向上を図る。	日々の授業実践を大切にしながら、各部の状況を踏まえて授業内容を見直す研究や取組を行う。	各部のスタディごとの課題に職員が取り組むことで授業を振り返り、さらに、見直していける機会となった。	日々の授業を大切にしたい実践の積み重ね。
図書部	図書館の整備や質の充実化を図る。	活用されていない図書の廃棄や購入雑誌の精選化を図る。	新規図書の購入や古い図書の廃棄を計画的に実施した。雑誌のアンケートを取り、購入雑誌の見直しをした。	予算に応じて図書の購入を進める。新聞購読の検討。
教育情報部	生徒のタブレット端末の利活用を増やす。	児童生徒が主体的に授業でタブレット端末を活用できるように、職員へ授業実践やアプリの活用法の紹介を行う。	授業に合わせたアプリを導入し、児童生徒に合わせた機器の使用法の提案を行った。	児童生徒に合わせたタブレット端末への支援機器の利用を増やす。
生徒指導部	教職員が人権意識の高い生徒指導が行える学校を目指す。	幼児児童生徒個々の気持ちに寄り添った生徒指導を実践するため、教職員への人権研修を検討・実践する。	教職員が研修を通して、より人権意識を高め子供たちの立場に寄り添った指導にあたることができた。	障害者の人権を考える研修を設け、現場に生かせるようにする。
進路指導部	児童生徒の進路目標や目指す姿を皆で共有して指導していく。	各学部の進路指導に関わる取り組みについて、研修などを通じて知ったり、意見交換したりする機会を設ける。	研修の機会を設けることで、今後の進路指導に活かせる情報を得たと感じた職員が増えた。	教員同士が主体的に情報交換を行う環境設定。
保健部	保健や給食、医療的ケアなどの支援の充実を図る。	教職員の知識向上や意識付けを行うために、研修や訓練及び情報共有の場を設定する。	研修を行ったことで、教職員の知識と意識が向上し、よりよい支援につなげることができた。	よりよい研修方法や情報共有の検討。
自立活動部	自立活動に関する専門性の向上及び指導内容・方法の充実。	校内の勉強会や外部専門機関との連携、研修を通して専門性や指導方法の向上を図る。	相談会の活用や支援機器の掲示を通して、専門性の向上や指導内容の充実を図ることができた。	専門家の活用や支援機器の掲示を続け指導の向上に努める。
教育支援部	校内外の特別支援教育の連携を強化する。	巡回相談や研修を充実し、支援内容の周知を図り、関係機関との連携を深める。	巡回相談では情報共有を通して、児童生徒の実態把握がより具体的にになり、支援方法の共通理解が進んだ。	学校として、支援方法の知識を蓄積する仕組みづくりの提案。
寮務部	基本的な生活習慣と社会性の向上を目指した指導・支援を行う。	主体的な行動・生活を送りながら、他者とのつながりを大事にできるような場面設定をする。	行事や日々の当番活動の中で仲間と意見を交わし協力して行うことで、思いやりや心を学ぶことができた。	活動全体を通して、他社と関わる機会をもつ方法を考えていく。

重点目標 ② 安全で安心な学校づくり～一人一人を大切に作る学校～				
担当	具体的方策	具体的方策	評価結果	課題
幼小学部	肢体不自由教育の専門性を生かした安全な指導を行う。	実態に応じた適切な姿勢保持、体位変換、摂食指導等を検討し、安全安心指導を実践する。	心身の実態の変化に応じた手だての検討やヒヤリハット一覧の活用を通して、安全面に配慮して指導を行った。	肢体不自由教育の専門性を図り、安全性を高めていく。
中学部	生徒が安心して活躍できる教育環境をつくる。	個性を尊重した高い人権意識の下、教員間や保護者、関係機関との連携を図り適切な生徒指導を行う。	適切な生徒指導の下、生徒が心身ともに健康に学校生活を送ることができた。	さらなる高い人権意識の下、継続して適切な生徒指導を行う。
高等部	校内外の連携を深め、個に応じた安心安全な環境づくりに努める。	保護者や職員間および外部機関との連携を深め、より各生徒のニーズに合った指導支援を行う。	職員間、保護者、外部機関と連携し、情報を共有しながら、個に応じた支援をすることができた。	校内外の連携をさらに深め、個の実態や課題に応じた支援を行う。
訪問教育部	多くの職員が訪問教育について理解できるよう努める。	本校訪問教育の現状を周知する機会を設ける。	学年掲示板に訪問生コーナーを設けたり、訪問掲示板を活用したりして、授業の様子を伝えることができた。	児童生徒の様子や、授業での取組を継続的に発信する。
総務部	学校環境の整備に取り組む。	学校備品の点検・管理や教育活動が分かる校内掲示に努め、安全で安心できる学校環境を作る。	学校備品や消耗品の故障、紛失を防ぐために安全な使用方法の提示や不具合への対応をすることができた。	教室移動や工事による備品紛失防止。職員自己負担消耗品の軽減。
研修部	教職員の能力や専門性の向上を目指す。	一人一人の子どもたちに対応するための必要な知識、技能の習得、安全に関する訓練等の研修を行う。	専門的な研修を企画するとともに、初めて他校との合同研修を行い、職員の知識、技能のアップを図った。	職員のニーズと研修内容の検討、他校との調整。
図書部	図書室利用の現状把握と図書利用における課題を探る。	図書管理システムの統計や職員アンケートから図書利用状況の実態や課題を探る。	図書管理システムの貸出データや蔵書の構成から、図書の利用状況や必要な図書を検討した。	本を探しやすい棚にする。図書管理システムの更新。
教育情報部	教員のICT環境の充実を図る。	支援機器等を活用しやすいように整理し、職員のICT機器の利活用推進を図る。	機能や使い方の変更があった場合は情報共有し、マニュアルの作成や更新を行い、ICT環境の充実を図った。	使用の少ない支援機器の紹介をして授業に活用できるようにする。
生徒指導部	安全で安心な学校づくりに取り組む。	安全な学校生活を送れるよう防災・防犯体制の見直しや職員研修等を行い、教育環境の整備に取り組む。	いろいろな条件を加味して訓練内容に変化をもたせることで、職員個々の防災意識をより高めることができた。	これまでは想定外だった災害を訓練内容にどのように組み込むか。
進路指導部	地域の福関連事業所や制度について全体で情報共有する。	掲示板や進路だよりを通じて新しい情報を発信し、研修を通じて制度の正しい理解を促す機会を設定する。	卒業後の進路先やサービスについて、多様なケースがあることを具体的に知ることができた。	進路が知りえた情報の周知について。
保健部	安全で安心な学校生活を送れる環境を整える。	定期的な環境整備、ヒヤリハット事例の共有を行い、衛生管理と事故の防止を図る。	随時環境整備に取り組んだりヒヤリハット事例を共有したりして、教職員全体で安全で安心な環境を整えた。	環境整備の方法の見直しと事例共有の周知。
自立活動部	活動室や日常的に使う物への安全性や衛生管理に取り組む。	活動室内の清掃や物品の管理、チェックシートなどを活用し、安全で使いやすい環境を整える。	チェックシートなどの活用を通して車椅子や装具の安全管理に努めることができた。	今後も安全意識をもって取り組めるように継続していく。
教育支援部	災害時の「心のケア」体制を整備し、実践できるようにする。	マニュアルを作成し、心のケアの対応力を高める支援体制を強化する。	生徒指導部と災害時に教職員が取るべき心のケアに関する対応の流れについて共通理解を図ることができた。	他分掌と協力して、マニュアルの完成を目指していく。
寮務部	安全に生活でき、安心して楽しく過ごせる環境づくりに努める。	舎生の実態に合わせた各種訓練の実施と地震対策をはじめとした災害予防策を講じていく。	個の課題を解決することによって、より実用的な対応方法や予防策を考え、実施できるようになった。	今後も各舎生の特性や個性を考慮した安全管理を行っていく。

重点目標 ③ 教職員の在校等時間の縮減 ～教職員が元気で質の高い学校～				
担当	具体的方策	具体的方策	評価結果	課題
幼小学部	効率的な業務の進め方を検討して実践する。	教材の共有使用、行事の進め方の検討等を行い、学習を保障しながら業務量の削減に努める。	会議の効率的な運用や、遠足、社会見学の効果的で効率的な実施方法の検討を行った。	引き続き学習保障をしながら業務効率化を検討していく。
中学部	心理的安全性の高い職場で、質の高い授業づくりを効率よく行う。	それぞれの教員がもつ知見の共有や学び合いをするなど部全体で情報共有を図る。	心理的安全性の高い職場を実現し、教員の知見や経験を生かした授業を実践できた。	教員の心身の健康の向上を目指した取組を継続して行う。
高等部	職務の効率化や分散化を促進し、働きやすい環境づくりに努める。	教育の質の向上を意識し、教材の共有化、業務の整理・分散化および会議の効率化を進める。	業務内容に応じた分担や協力、会議の精選や効率化を図ることで、授業準備時間の確保ができた。	業務の整理・分担・協力を進め、働きやすい環境づくりを行う。
総務部	儀式的行事の見直しと業務の効率化を図る。	管理職、他分掌と連携・調整しながら儀式的行事の見直しを行う。業務内容を精選して計画運営をする。	卒業式及び入学式の会場配置図、動線の見直し、業務の精選や係分担の微調整を行った。	担当業務の効率化やスリム化、他分掌との業務連携を図る。
教務部	スクールエンジンの運用拡大	指導要録、修了認定資料作成に向けて活用方法を検討し、諸帳簿等作成時間の削減を目指す。	指導要録の導入に向けて、準備が整ってきた。また、認定会議資料作成の簡素化に向けて準備ができた。	分かりやすいマニュアルの作成。